

「コタカ学」実施報告

—学祖の言葉を通して大妻の伝統を学ぶ—

A memoir on "Kotaka Gaku", 2020: inheriting Otsuma tradition
through studying the words of the founder, Kotaka Otsuma

下坂 智恵¹, 谷口 新¹, 中尾 桂子², 中村 邦子¹,
岡田 小夜子¹, 玉木 伸介¹, 堀口 美恵子¹, 廣瀬 友久³

¹大妻女子大学短期大学部家政科, ²大妻女子大学短期大学部国文科, ³大妻女子大学短期大学部英文科

Chie Shimosaka¹, Shin Taniguchi¹, Keiko Nakao², Kuniko Nakamura¹,
Sayoko Okada¹, Nobusuke Tamaki¹, Mieko Horiguchi¹, and Tomohisa Hirose³

¹Department of Domestic Science, Otsuma Women's University Junior College Division

²Department of Japanese Language and Literature, Otsuma Women's University Junior College Division

³Department of English Language and Literature, Otsuma Women's University Junior College Division
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-8357 Japan

キーワード：コタカ学，継承，建学の精神，自己実現，考えるヒント

Key words : Kotaka Gaku, Succession, Spirit of foundation, Self-actualization, Hints for thinking

抄録

本学は、専門的な知識や技術の修得だけではなく、女性として人間としての豊かな人格を形成することにも力を注いでいる。本短期大学部では、学生が創立者大妻コタカの建学の精神を学ぶことで、多様な生き方の中から自分らしい生き方を見つけ、新時代に対応できる優れた社会人となるために、2020年度入学生より専任教員が担当する「コタカ学」を必修科目として開講した。8回全てをオンライン授業で実施し、manabaによるアンケート結果より、学生が短期大学部での2年間の学びについてどのように捉えたかを把握し、今後の教育の方向性を探ろうとした。出席率は96.7～99.5%と非常に高く、学生の「コタカ学」に対する学修意欲の高さが示された。8回を通してアンケートの平均点が4.19～4.88（5段階評価）であり、学生からの評価が高かった。テーマにより学科・専攻間に有意差がみられ次年度以降の参考としたい。全8回分の自由記述をテキストマイニングによる分析対象のデータとして、KH Corderを用いて多変量解析を行った。

今年度は対面授業ができず、オンライン授業での実施となり、初年度の「コタカ学」の目標を到達できるか否か危ぶまれたが、学生からの評価は非常に高かった。「人としても成長できる2年間にしたい」「大妻女子大学短期大学部の目指す学生の理想像や自分の目指す理想像が具体的に見えた気がする」「コタカ先生の言葉から、生きていく上でとても重要なことを学ぶことができたと思う」「女性として自立した立派な女性になりたいと感じた」等々の意見が出された。入学したばかりの学生にとって、「コタカ学」を学ぶことにより、大妻での学びを再認識し、2年間の目標を掲げることができたことは非常に意義のあることであり、本授業の到達目標を十分に達成できたと考える。「コタカ学」で学んだコタカの含蓄に富む言葉が、学生の今後の人生において重要な指針となることを期待する。

1. 結論

本学の校訓「恥を知れ」は、自らを高め、自らを律する心によって、「何が恥ずかしいことかを知

る人となれ」ということである。本短期大学部では、2020年度入学生より専任教員が担当する「コタカ学」を全学共通科目基礎科目区分「I 女性と

キャンパスライフ」に必修科目として開講した。この授業では、創業者大妻コタカの言葉から建学の精神を学ぶことで、恥ずべきことは何かを知り、他者とのコミュニケーションをとることができ、自己実現・社会貢献ができる人物となるように「考えるヒント」を提供する。学生が多様な生き方の中から自分らしい生き方を見つけ、新時代に対応できる優れた社会人となることをねらいとする。

この学修目的を達成するために、授業では毎回、コタカの日々の語録をまとめた『コタカ先生からの言葉』『創業者大妻コタカ先生言行録^[1]』中より2つ以上の言葉を選択して伝達した。『創業者大妻コタカ先生言行録』は短大生全員に配布準備した。学生には、入学前に学院よりコタカについて書かれた本^[2-4]の中から『教えの道をひとすじに 大妻コタカ物語』が配布されており、コタカの生い立ちや歴史の内容は重複すると考えた。本授業のためにコタカの言葉を教育上の基本的な指針とし、また、時代の進展を鑑みて、現代の学生が共感・理解できるような学修内容に配慮すべく授業担当者間で検討し実施内容を決定した。

「コタカ学」について、manaba（クラウド型教育支援システム）によるアンケート調査の結果から、学生が本短期大学部での2年間の学びをどのように捉えたかを把握し、今後の短期大学部の教育の方向性を探ろうとした。実施した結果について報告する。

2. 方法

2.1. 対象

対象学生は、2020年度4月に本短期大学部に入學した1年生で、家政科家政専攻（短家）108名（29.7%）・生活総合ビジネス専攻（短ビジ）84名（23.1%）・食物栄養専攻（短食栄）71名（19.5%）、国文科（短国）49名（13.5%）、英文科（短英）52名（14.3%）の合計364名である。

2.2. 調査方法

授業内容及びオンライン授業の形態は、表1に示した。8名の教員は専門が異なるため、各テーマに係る大妻コタカからの言葉を2つ以上授業内容に加えることを共通ルールとした。2020年5月7日～6月25日の計8回実施し、manabaによるアンケートの提出を1週間後とした。アンケートの項目は表2に示した通りでQ1～Q5の5項目については、「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階評価とし、Q6については、自由記述とした。Q1～Q6全ての項目を必須回答とした。

2.3. 分析方法

Q1～Q5のデータ解析には、統計解析用ソフトIBM SPSS Statistics Ver 22 for Windowsを用い、各アンケート項目について、単純集計、項目間のクロス集計を行い、 χ^2 検定により有意差を判定した。

表1. 授業内容及びオンライン授業の形態

回数	授業内容	オンライン授業の形態	授業担当者
1回	授業内容のオリエンテーション-輝く女性になるために食事を楽しむ〔人の和/強く正しくにこやかに〕	PPTスライド	下坂智恵
2回	仕事に取り組む基本〔いつでもどこでも何からでも学べ/心ゆくばかり働きましよう/仕事に追われずに〕	音声付PPT動画	岡田小夜子
3回	自立する女性のための「お金」学〔根のごとく/柳は教える〕	音声付PPT動画	玉木伸介
4回	英語とリテラシー〔静思の時/真の学問〕	テキスト(教材)提示	廣瀬友久
5回	相手にわかりやすい表現〔隣を愛する/理想は高遠に実行は足元から〕	テキスト(教材)提示とPPTスライド	中尾桂子
6回	正しい衣服の知識を身につける〔静かな実行家に/みんな美しく〕	動画配信とPPTスライド	中村邦子
7回	心と身体の健康づくり〔みんな美しく/社会のために大きく貢献させていただきます〕	テキスト(教材)提示	堀口美恵子
8回	住まいの温故知新〔らしくあれ/感謝の生活〕	動画配信とテキスト(教材)提示	谷口 新

[] : 当該テーマに係る大妻コタカからの言葉, PPT : PowerPoint.

Q6の自由記述については、全8回分の自由記述をテキストマイニング⁵⁾による分析対象のデータとしてKH Corderを用いて多変量解析⁶⁾を行った。

表2. アンケート項目

Q1. 今日の話は理解できましたか
A1 そう思う
A2 ややそう思う
A3 どちらともいえない
A4 あまりそう思わない
A5 そう思わない
Q2. 今日のテーマは興味・関心がもてましたか
A1 そう思う
A2 ややそう思う
A3 どちらともいえない
A4 あまりそう思わない
A5 そう思わない
Q3. 今日の話聞いて新しい知識が得られましたか
A1 そう思う
A2 ややそう思う
A3 どちらともいえない
A4 あまりそう思わない
A5 そう思わない
Q4. 今日のテーマについてもっと深く学びたいと思いましたか
A1 そう思う
A2 ややそう思う
A3 どちらともいえない
A4 あまりそう思わない
A5 そう思わない
Q5. 総合的にみて今日の話から「考えるヒント」が得られましたか
A1 そう思う
A2 ややそう思う
A3 どちらともいえない
A4 あまりそう思わない
A5 そう思わない
Q6. 今日の授業で聞いた「大妻コタカ先生からの言葉」に対して考えたこと・感じたこと等を具体的に記入してください

3. 結果及び考察

3.1. 各テーマにおける学生の意識

本短期大学の家政科(3専攻)、国文科、英文科の専門が異なる専任教員8名が「コタカ学」を担当し、学生がどのように捉えたかを知るために

アンケート5項目について5段階評価を行った。

オンライン授業となったため、小テストの提出に加え、小テスト・アンケートの提出により出席とみなした。出席率は96.7~99.5%と非常に高く、学生の「コタカ学」に対する意欲の高さが示された。

アンケートのQ1今日の話は理解できましたか、Q2今日のテーマは興味・関心がもてましたか、Q3今日の話聞いて新しい知識が得られましたか、Q4今日のテーマについてもっと深く学びたいと思いましたか、Q5総合的にみて今日の話から「考えるヒント」が得られましたかの5項目に対する回答結果を表3~表6に示した。8回を通して全体的に平均点が4.19~4.88と高く、ほとんどの学生が「そう思う」、「ややそう思う」と回答し、「あまりそう思わない」、「そう思わない」と回答した者は若干名であった。

「第1回テーマ：食事を楽しむ」は、PPT(Power Point)スライドによる授業で行った。食事マナーについて理解できるように詳細に記述した48枚のスライドを提示した。平均点をみるとQ3新しい知識が得られ、Q2興味・関心がもてたという項目の評価が高かった。

「第2回テーマ：仕事に取り組む基本」は、音声付PPT動画で行った。授業内容についてスライドにまとめ、担当者が音声を入れて動画で配信を行い、仕事に取り組むための基本的な内容を提示した。Q3新しい知識が得られ、Q1話は理解できたという項目の評価が高かった。

「第3回テーマ：自立する女性のための「お金」学」も音声付PPT動画で行った。自立と「お金」について、コタカの言葉と関連付けながら学生に理解しやすいように説明を行った。Q3新しい知識が得られ、Q1話は理解できたという項目の評価が高かった。

「第4回テーマ：英語とリテラシー」は、テキスト(教材)提示による授業を行った。コタカの言葉とフランシス・ベーコン、ルネ・デカルトとを関連させながら説明し、英語とリテラシーについて考えさせ、考えるためのヒントを提供した。Q3新しい知識が得られ、Q5「考えるヒント」が得られたという項目の評価が高かった。

「第5回テーマ：相手にわかりやすい表現」は、manabaのコースコンテンツに詳細な資料を提示して自分自身の文章の書き方を振り返らせてからPPTスライドで学ぶという授業であった。Q3新し

表3. 「コタカ学」アンケート集計表(第1回目、第2回目)

【第1回テーマ】食事を楽しむ

		短家	短ビジ	短食栄	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	88	62	57	37	48	292	80.7%	4.80
	A2 ややそう思う	20	19	13	10	4	66	18.2%	
	A3 どちらともいえない	0	2	0	2	0	4	1.1%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	90	77	58	40	48	313	86.5%	4.86
	A2 ややそう思う	18	6	12	8	4	48	13.3%	
	A3 どちらともいえない	0	0	0	1	0	1	0.3%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	92	78	60	44	50	324	89.5%	4.88
	A2 ややそう思う	15	5	10	4	1	35	9.7%	
	A3 どちらともいえない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A4 あまりそう思わない	1	0	0	1	1	3	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	85	63	48	32	41	269	74.3%	4.72
	A2 ややそう思う	21	18	21	15	11	86	23.8%	
	A3 どちらともいえない	2	1	1	2	0	6	1.7%	
	A4 あまりそう思わない	0	1	0	0	0	1	0.3%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q5	A1 そう思う	70	42	35	17	37	201	55.5%	4.46
	A2 ややそう思う	31	36	29	25	13	134	37.0%	
	A3 どちらともいえない	6	4	5	6	1	22	6.1%	
	A4 あまりそう思わない	1	0	1	1	1	4	1.1%	
	A5 そう思わない	0	1	0	0	0	1	0.3%	
	出席	108	83	70	49	52	362	99.5%	364
	欠席	0	1	1	0	0	2	0.5%	

【第2回テーマ】仕事に取り組む基本

		短家	短ビジ	短食栄	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	82	68	46	38	44	278	78.1%	4.78
	A2 ややそう思う	22	15	24	8	7	76	21.3%	
	A3 どちらともいえない	0	1	0	1	0	2	0.6%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	69	55	38	32	40	234	65.7%	4.63
	A2 ややそう思う	31	28	30	14	9	112	31.5%	
	A3 どちらともいえない	3	1	2	1	2	9	2.5%	
	A4 あまりそう思わない	1	0	0	0	0	1	0.3%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	86	71	56	36	47	296	83.1%	4.83
	A2 ややそう思う	18	12	13	11	4	58	16.3%	
	A3 どちらともいえない	0	1	1	0	0	2	0.6%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	58	40	25	18	35	176	49.4%	4.42
	A2 ややそう思う	37	39	38	24	16	154	43.3%	
	A3 どちらともいえない	8	5	6	5	0	24	6.7%	
	A4 あまりそう思わない	1	0	1	0	0	2	0.6%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q5	A1 そう思う	76	64	46	35	40	261	73.3%	4.70
	A2 ややそう思う	25	19	21	12	8	85	23.9%	
	A3 どちらともいえない	2	1	3	0	1	7	2.0%	
	A4 あまりそう思わない	1	0	0	0	2	3	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	出席	104	84	70	47	51	356	97.8%	364
	欠席	4	0	1	2	1	8	2.2%	

- Q1 今日の話は理解できましたか
- Q2 今日のテーマは興味・関心をもてましたか
- Q3 今日の話を聞いて新しい知識が得られましたか
- Q4 今日のテーマについてもっと深く学びたいと思いましたか
- Q5 総合的にみて今日の話から「考えるヒント」が得られましたか

表4. 「コタカ学」アンケート集計表(第3回目、第4回目)

【第3回テーマ】自立する女性のための「お金」学

		短家	短ビジ	短食業	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	69	58	35	32	40	234	66.5%	4.63
	A2 ややそう思う	32	25	28	14	10	109	31.0%	
	A3 どちらともいえない	1	1	3	1	1	7	2.0%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	1	0	0	1	0.3%	
	A5 そう思わない	1	0	0	0	0	1	0.3%	
Q2	A1 そう思う	58	62	36	28	43	227	64.5%	4.56
	A2 ややそう思う	35	20	25	15	4	99	28.1%	
	A3 どちらともいえない	9	2	4	4	4	23	6.5%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	2	0	0	2	0.6%	
	A5 そう思わない	1	0	0	0	0	1	0.3%	
Q3	A1 そう思う	76	69	49	30	45	269	76.4%	4.74
	A2 ややそう思う	25	14	16	16	6	77	21.9%	
	A3 どちらともいえない	1	1	2	1	0	5	1.4%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	1	0	0	0	0	1	0.3%	
Q4	A1 そう思う	48	47	25	19	34	173	49.1%	4.37
	A2 ややそう思う	40	33	31	20	15	139	39.5%	
	A3 どちらともいえない	14	4	10	8	2	38	10.8%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	1	0	0	1	0.3%	
	A5 そう思わない	1	0	0	0	0	1	0.3%	
Q5	A1 そう思う	60	63	36	29	40	228	64.8%	4.61
	A2 ややそう思う	40	19	29	16	10	114	32.4%	
	A3 どちらともいえない	2	2	2	2	1	9	2.6%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	1	0	0	0	0	1	0.3%	
出席		103	84	67	47	51	352	96.7%	364
欠席		5	0	4	2	1	12	3.3%	

【第4回テーマ】英語とリテラシー

		短家	短ビジ	短食業	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	52	37	24	26	41	180	50.3%	4.36
	A2 ややそう思う	44	39	29	19	8	139	38.8%	
	A3 どちらともいえない	7	6	11	3	1	28	7.8%	
	A4 あまりそう思わない	1	2	6	0	2	11	3.1%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	47	46	28	22	36	179	50.0%	4.33
	A2 ややそう思う	42	31	25	23	11	132	36.9%	
	A3 どちらともいえない	12	6	12	2	2	34	9.5%	
	A4 あまりそう思わない	3	1	4	1	3	12	3.4%	
	A5 そう思わない	0	0	1	0	0	1	0.3%	
Q3	A1 そう思う	70	53	30	27	42	222	62.0%	4.57
	A2 ややそう思う	28	29	37	19	8	121	33.8%	
	A3 どちらともいえない	6	2	0	2	2	12	3.4%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	3	0	0	3	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	44	36	22	15	35	152	42.5%	4.19
	A2 ややそう思う	40	34	27	26	12	139	38.8%	
	A3 どちらともいえない	16	13	14	6	3	52	14.5%	
	A4 あまりそう思わない	4	0	7	1	2	14	3.9%	
	A5 そう思わない	0	1	0	0	0	1	0.3%	
Q5	A1 そう思う	59	55	30	23	35	202	56.4%	4.49
	A2 ややそう思う	41	23	36	22	14	136	38.0%	
	A3 どちらともいえない	4	5	1	3	2	15	4.2%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	3	0	1	4	1.1%	
	A5 そう思わない	0	1	0	0	0	1	0.3%	
出席		104	84	70	48	52	358	98.4%	364
欠席		4	0	1	1	0	6	1.6%	

- Q1 今日の話は理解できましたか
- Q2 今日のテーマは興味・関心がもてましたか
- Q3 今日の話を聞いて新しい知識が得られましたか
- Q4 今日のテーマについてもっと深く学びたいと思いましたか
- Q5 総合的にみて今日の話から「考えるヒント」が得られましたか

表5. 「コタカ学」アンケート集計表(第5回目、第6回目)

【第5回テーマ】相手にわかりやすい表現

		短家	短ビジ	短食栄	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	74	52	30	26	44	226	63.1%	4.61
	A2 ややそう思う	30	29	37	20	7	123	34.4%	
	A3 どちらともいえない	2	3	3	0	1	9	2.5%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	71	56	37	27	46	237	66.2%	4.62
	A2 ややそう思う	31	25	29	16	5	106	29.6%	
	A3 どちらともいえない	3	3	4	3	1	14	3.9%	
	A4 あまりそう思わない	1	0	0	0	0	1	0.3%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	86	68	45	27	49	275	76.8%	4.75
	A2 ややそう思う	19	15	25	16	2	77	21.5%	
	A3 どちらともいえない	1	1	0	3	1	6	1.7%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	62	48	29	19	42	200	55.9%	4.49
	A2 ややそう思う	40	29	35	21	8	133	37.2%	
	A3 どちらともいえない	4	7	6	6	1	24	6.7%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	1	1	0.3%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q5	A1 そう思う	74	57	41	24	40	236	65.9%	4.62
	A2 ややそう思う	29	25	28	21	8	111	31.0%	
	A3 どちらともいえない	3	1	1	1	3	9	2.5%	
	A4 あまりそう思わない	0	1	0	0	0	1	0.3%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	1	1	0.3%	
	出席	106	84	70	46	52	358	98.4%	364
	欠席	2	0	1	3	0	6	1.6%	

【第6回テーマ】正しい衣服の知識を身につける

		短家	短ビジ	短食栄	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	91	67	50	40	47	295	82.9%	4.81
	A2 ややそう思う	14	15	18	6	3	56	15.7%	
	A3 どちらともいえない	1	1	1	1	0	4	1.1%	
	A4 あまりそう思わない	1	0	0	0	0	1	0.3%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	78	60	43	27	43	251	70.5%	4.69
	A2 ややそう思う	25	23	25	18	7	98	27.5%	
	A3 どちらともいえない	4	0	1	2	0	7	2.0%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	86	71	58	31	45	291	81.7%	4.80
	A2 ややそう思う	20	10	9	16	5	60	16.9%	
	A3 どちらともいえない	1	2	2	0	0	5	1.4%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	69	52	37	17	41	216	60.7%	4.54
	A2 ややそう思う	31	29	25	26	8	119	33.4%	
	A3 どちらともいえない	7	2	6	4	1	20	5.6%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	1	0	0	1	0.3%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q5	A1 そう思う	78	60	41	22	43	244	68.5%	4.63
	A2 ややそう思う	25	23	23	23	5	99	27.8%	
	A3 どちらともいえない	3	0	5	1	1	10	2.8%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	1	0	1	0.3%	
	A5 そう思わない	1	0	0	0	1	2	0.6%	
	出席	107	83	69	47	50	356	97.8%	364
	欠席	1	1	2	2	2	8	2.2%	

- Q1 今日の話は理解できましたか
 Q2 今日のテーマは興味・関心がもてましたか
 Q3 今日の話を聞いて新しい知識が得られましたか
 Q4 今日のテーマについてもっと深く学びたいと思いましたか
 Q5 総合的にみて今日の話から「考えるヒント」が得られましたか

表6. 「コタカ学」アンケート集計表(第7回目、第8回目)

【第7回テーマ】心と身体の健康づくり

		短家	短ビジ	短食栄	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	82	62	40	27	43	254	71.8%	4.71
	A2 ややそう思う	22	21	28	18	8	97	4.0%	
	A3 どちらともいえない	2	1	0	0	0	3	0.8%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	67	53	37	25	40	222	62.7%	4.57
	A2 ややそう思う	31	29	30	17	7	114	32.2%	
	A3 どちらともいえない	6	2	1	3	3	15	4.2%	
	A4 あまりそう思わない	2	0	0	0	1	3	0.8%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	81	61	46	34	44	266	75.1%	4.74
	A2 ややそう思う	24	23	19	10	7	83	23.4%	
	A3 どちらともいえない	1	0	3	1	0	5	1.4%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	61	50	30	20	39	200	56.5%	4.48
	A2 ややそう思う	35	31	32	18	10	126	35.6%	
	A3 どちらともいえない	10	3	6	7	1	27	7.6%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	1	1	0.3%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q5	A1 そう思う	65	56	41	22	42	226	63.8%	4.60
	A2 ややそう思う	38	27	21	21	7	114	32.2%	
	A3 どちらともいえない	3	1	6	2	1	13	3.7%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	1	1	0.3%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
出席		106	84	68	45	51	354	97.3%	364
欠席		2	0	3	4	1	10	2.7%	

【第8回テーマ】住まいの温故知新

		短家	短ビジ	短食栄	短国	短英	合計	割合	平均点
Q1	A1 そう思う	79	68	41	32	46	266	75.4%	4.75
	A2 ややそう思う	26	16	27	15	2	86	24.4%	
	A3 どちらともいえない	0	0	1	0	0	1	0.3%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q2	A1 そう思う	79	68	41	27	39	254	72.0%	4.70
	A2 ややそう思う	25	15	26	18	7	91	25.8%	
	A3 どちらともいえない	1	1	2	2	2	8	2.3%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q3	A1 そう思う	87	66	49	29	44	275	77.9%	4.76
	A2 ややそう思う	17	15	20	17	4	73	20.7%	
	A3 どちらともいえない	1	3	0	1	0	5	1.4%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
Q4	A1 そう思う	65	49	30	17	40	201	56.9%	4.48
	A2 ややそう思う	29	32	32	25	6	124	35.1%	
	A3 どちらともいえない	9	3	6	5	2	25	7.1%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	1	0	0	1	0.3%	
	A5 そう思わない	2	0	0	0	0	2	0.6%	
Q5	A1 そう思う	82	66	35	22	43	248	70.3%	4.66
	A2 ややそう思う	22	17	27	22	3	91	25.8%	
	A3 どちらともいえない	1	1	6	2	2	12	3.4%	
	A4 あまりそう思わない	0	0	1	1	0	2	0.6%	
	A5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0.0%	
出席		105	84	69	47	48	353	97.0%	364
欠席		3	0	2	2	4	11	3.0%	

- Q1 今日の話は理解できましたか
- Q2 今日のテーマは興味・関心をもてましたか
- Q3 今日の話を聞いて新しい知識が得られましたか
- Q4 今日のテーマについてもっと深く学びたいと思いましたか
- Q5 総合的にみて今日の話から「考えるヒント」が得られましたか

い知識が得られ Q2 興味・関心がもて、Q5「考えるヒント」が得られたという項目の評価が高かった。

「第6回テーマ:正しい衣服の知識を身につける」は、PPTスライドにより「大妻コタカ著作集^[7-9]」一覧を示してコタカの功績を伝え、学生にとって必要なリクルートスーツの着こなし方等についても加えた内容である。被服を学ばない学生もボタン付けができるように動画によりボタン付けについて配信した。Q1話を理解でき、Q3新しい知識が得られたという項目の評価が高かった。

「第7回テーマ:心と身体の健康づくり」は、テキスト(教材)提示による授業を行った。心と身体の健康づくりについて理解を深め、コタカの言葉から健康や幸福について考えるヒントを得ることを目標とした。Q3新しい知識が得られ、Q1話を理解できたという項目の評価が高かった。

「第8回テーマ:住まいの温故知新」は、対面授業で使用予定であった教室の映像をみせて、学生が教室に着席して受講していることを仮定しての授業を展開した。コタカの家とサザエさんの家と比較しながらの説明、7回目までの授業で使用した内容を盛り込んでの授業で最終授業に相応しい内容であった。Q3新しい知識が得られ、Q1話を理解できたという項目の評価が高かった。

3.2. 各テーマにおける所属別学生の意識

今回実施した8回全てのテーマにおいて、表3～表6に示したように学生からの評価は非常に高い結果であった。そこで、今後の検討課題とすべくさらに詳細な分析を行った。これら8回のテーマについて、学科・専攻別に差がみられるのかを知るために、質問項目と学科・専攻間のクロス集計を行い、 χ^2 検定により有意差を判定した。

(1) Q1 今日の話は理解できましたか

Q1の質問に対する学科・専攻別の回答を図1に示した。有意な差がみられたのは「第4回テーマ:英語とリテラシー」($P<0.001$)、「第5回テーマ:相手にわかりやすい表現」($P<0.001$)、「第7回テーマ:心と身体の健康づくり」($P<0.05$)、「第8回テーマ:住まいの温故知新」($P<0.001$)であった。有意差がみられた4回のテーマについて「そう思う」とした割合が最も低かったのは短食栄であり、第4回テーマは34%であった。高かったのは短英で、第8回テーマは96%であった。

(2) Q2 今日のテーマは興味・関心がもてましたか

Q2の質問に対する回答を図2に示した。有意な差がみられたのは「第3回テーマ:自立する女性のための「お金」学」($P<0.01$)、「第4回テーマ:英語とリテラシー」($P<0.05$)、「第5回テーマ:相手にわかりやすい表現」($P<0.05$)、「第6回テーマ:正しい衣服の知識を身につける」($P<0.05$)、「第8回テーマ:住まいの温故知新」($P<0.05$)であった。これらのテーマで「そう思う」とした割合が低かったのは短食栄、短国であり、高かったのは短英であった。

(3) Q3 今日の話聞いて新しい知識が得られましたか

Q3の質問に対する回答を図3に示した。「第4回テーマ:英語とリテラシー」($P<0.001$)、「第5回テーマ:相手にわかりやすい表現」($P<0.001$)、「第6回テーマ:正しい衣服の知識を身につける」($P<0.05$)、「第8回テーマ:住まいの温故知新」($P<0.01$)に有意な差がみられた。これらのテーマで「そう思う」とした割合が低かったのは第4回テーマでは短食栄、第5回・6回・8回テーマでは短国であった。一方、これらのテーマでも割合が高かったのは短英であった。

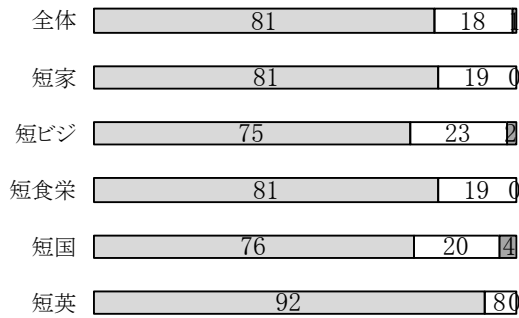
(4) Q4 今日のテーマについてもっと深く学びたいと思いましたか

Q4の質問に対する回答を図4に示した。「第1回テーマ:食事を楽しむ」、「第3回テーマ:自立する女性のための「お金」学」以外の6テーマについて0.1・1・5%水準で有意差がみられた。これら有意な差がみられた項目で「そう思う」とした割合が低かったのは、全体的にみて短食栄と短国であり、短英は割合が高かった。

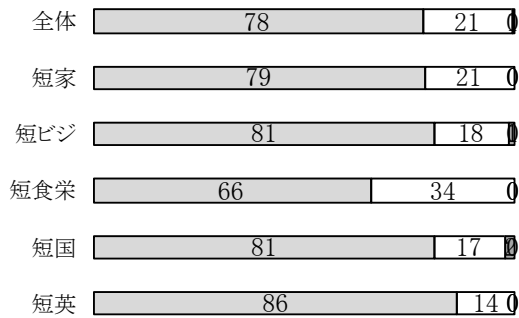
(5) Q5 総合的にみて今日の話から「考えるヒント」が得られましたか

Q5の質問に対する回答を図5に示した。「第1回テーマ:食事を楽しむ」($P<0.05$)、「第4回テーマ:英語とリテラシー」($P<0.05$)、「第6回テーマ:正しい衣服の知識を身につける」($P<0.001$)、「第7回テーマ:心と身体の健康づくり」($P<0.01$)、「第8回テーマ:住まいの温故知新」($P<0.001$)に有意な差がみられた。「そう思う」とした割合が最も低

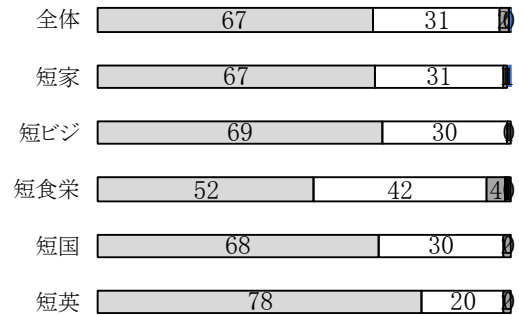
【第1回テーマ】食事を楽しむ



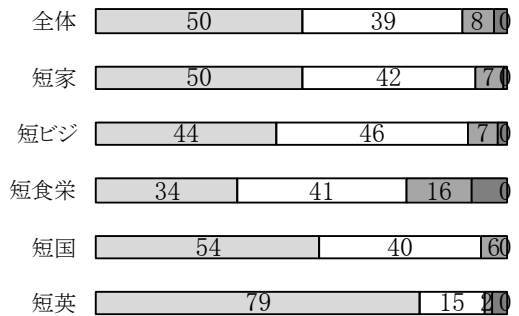
【第2回テーマ】仕儀に取り組む基本



【第3回テーマ】自立する女性のための「お金」学

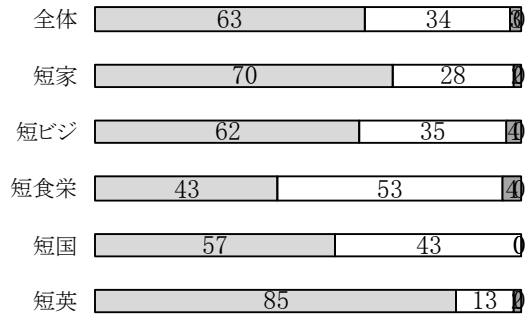


【第4回テーマ】英語とリテラシー

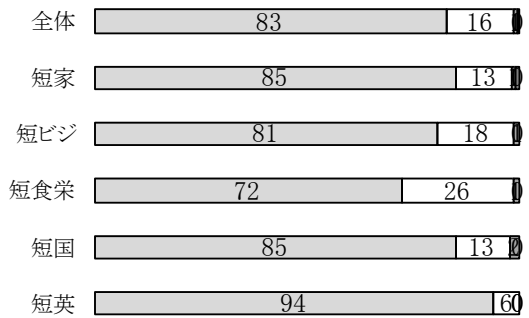


P<0.001

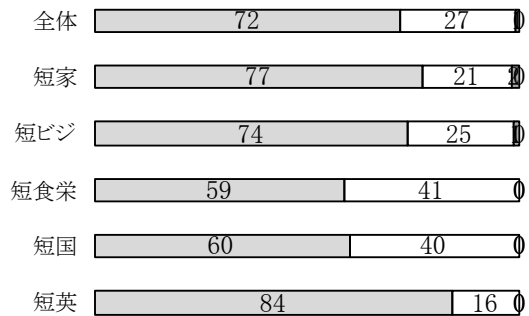
【第5回テーマ】相手にわかりやすい表現



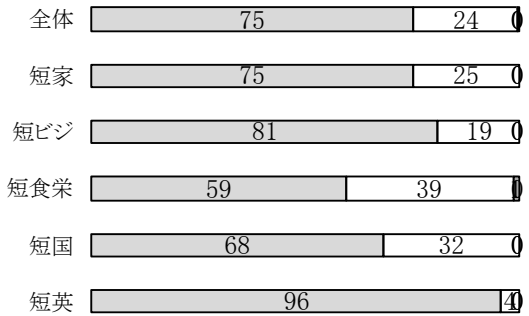
【第6回テーマ】正しい衣服の知識を身につける P<0.001



【第7回テーマ】心と身体の健康づくり



【第8回テーマ】住まいの温故知新 P<0.05

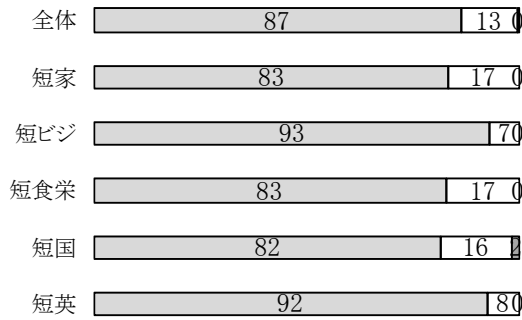


P<0.001

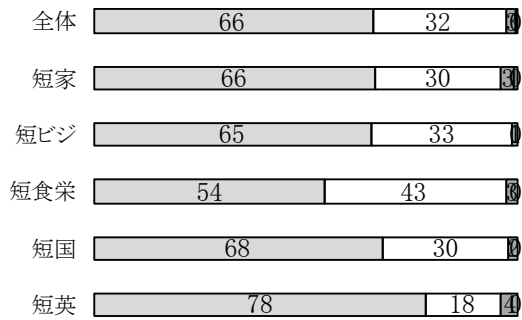
図1. Q1今日の話は理解できましたか

□ そう思う □ ややそう思う □ どちらともいえない □ あまりそう思わない □ そう思わない

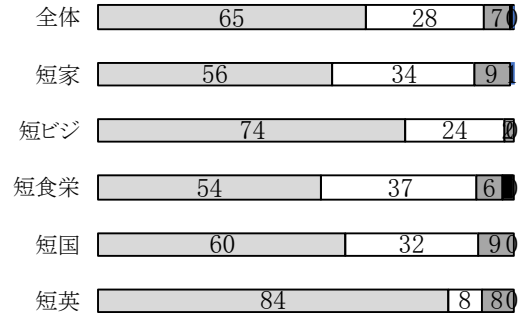
【第1回テーマ】食事を楽しむ



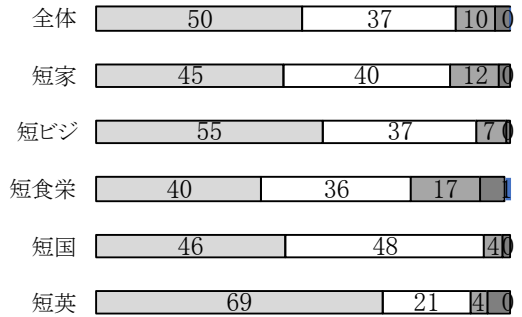
【第2回テーマ】仕儀に取り組む基本



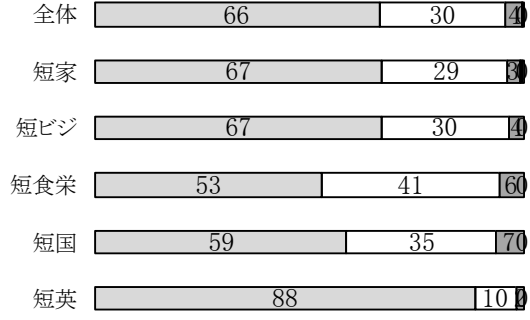
【第3回テーマ】自立する女性のための「お金」学



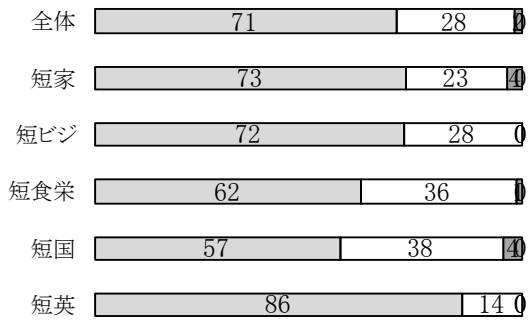
【第4回テーマ】英語とリテラシー



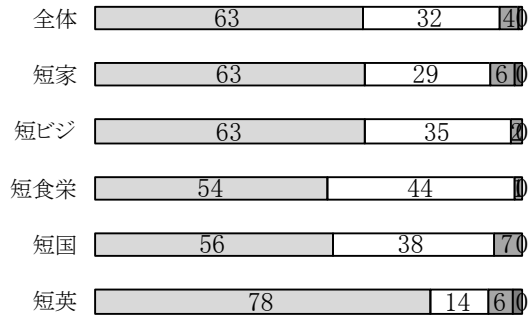
【第5回テーマ】相手にわかりやすい表現



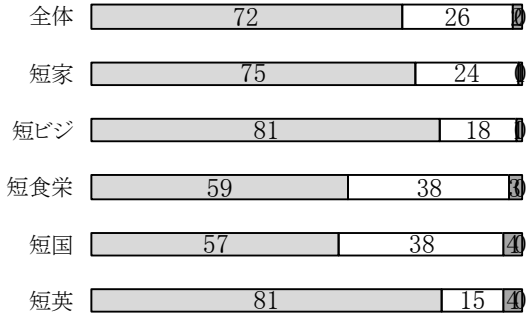
【第6回テーマ】正しい衣服の知識を身につける



【第7回テーマ】心と身体の健康づくり



【第8回テーマ】住まいの温故知新



P<0.01

P<0.05

P<0.05

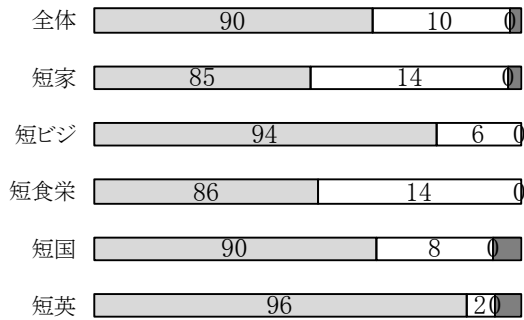
P<0.05

P<0.05

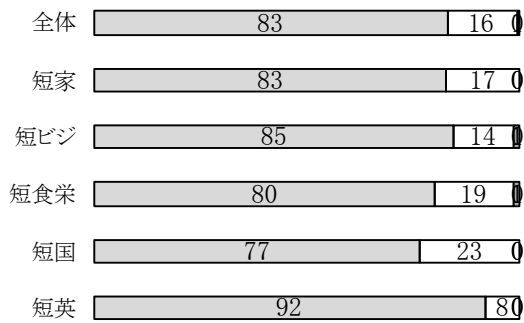
図2. Q2今日のテーマは興味・関心がもてましたか

□ そう思う □ ややそう思う □ どちらともいえない □ あまりそう思わない □ そう思わない

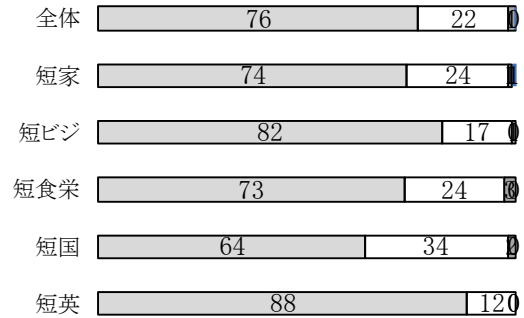
【第1回テーマ】食事を楽しむ



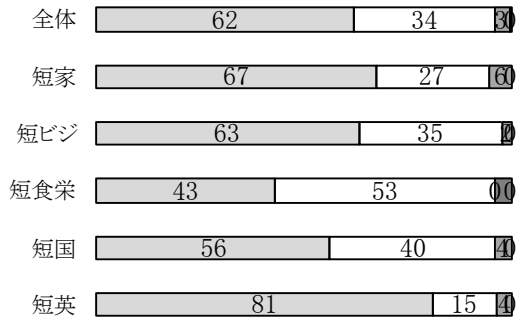
【第2回テーマ】仕儀に取り組む基本



【第3回テーマ】自立する女性のための「お金」学

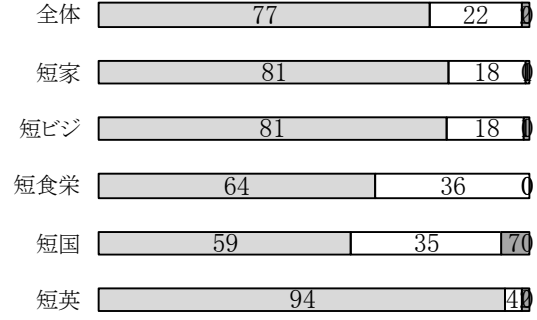


【第4回テーマ】英語とリテラシー

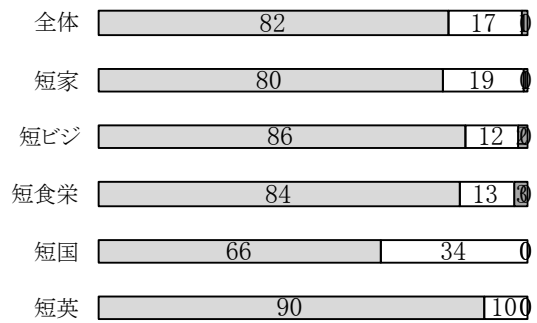


P<0.001

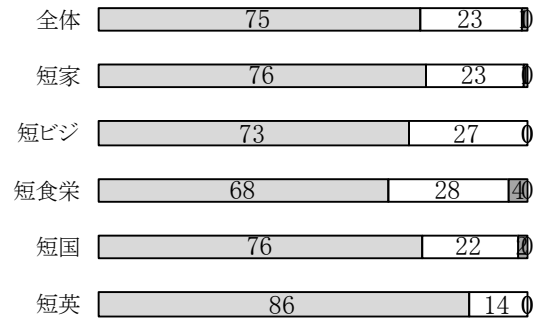
【第5回テーマ】相手にわかりやすい表現



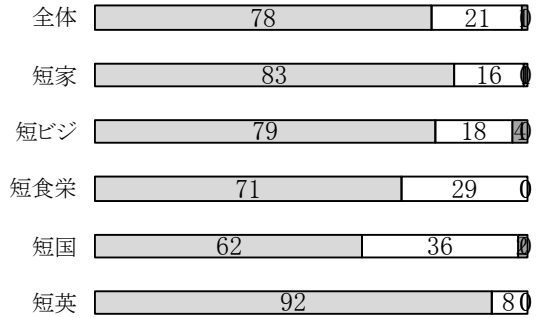
【第6回テーマ】正しい衣服の知識を身につける P<0.001



【第7回テーマ】心と身体の健康づくり P<0.05



【第8回テーマ】住まいの温故知新



P<0.01

図3. Q3 今日の話聞いて新しい知識が得られましたか

そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない

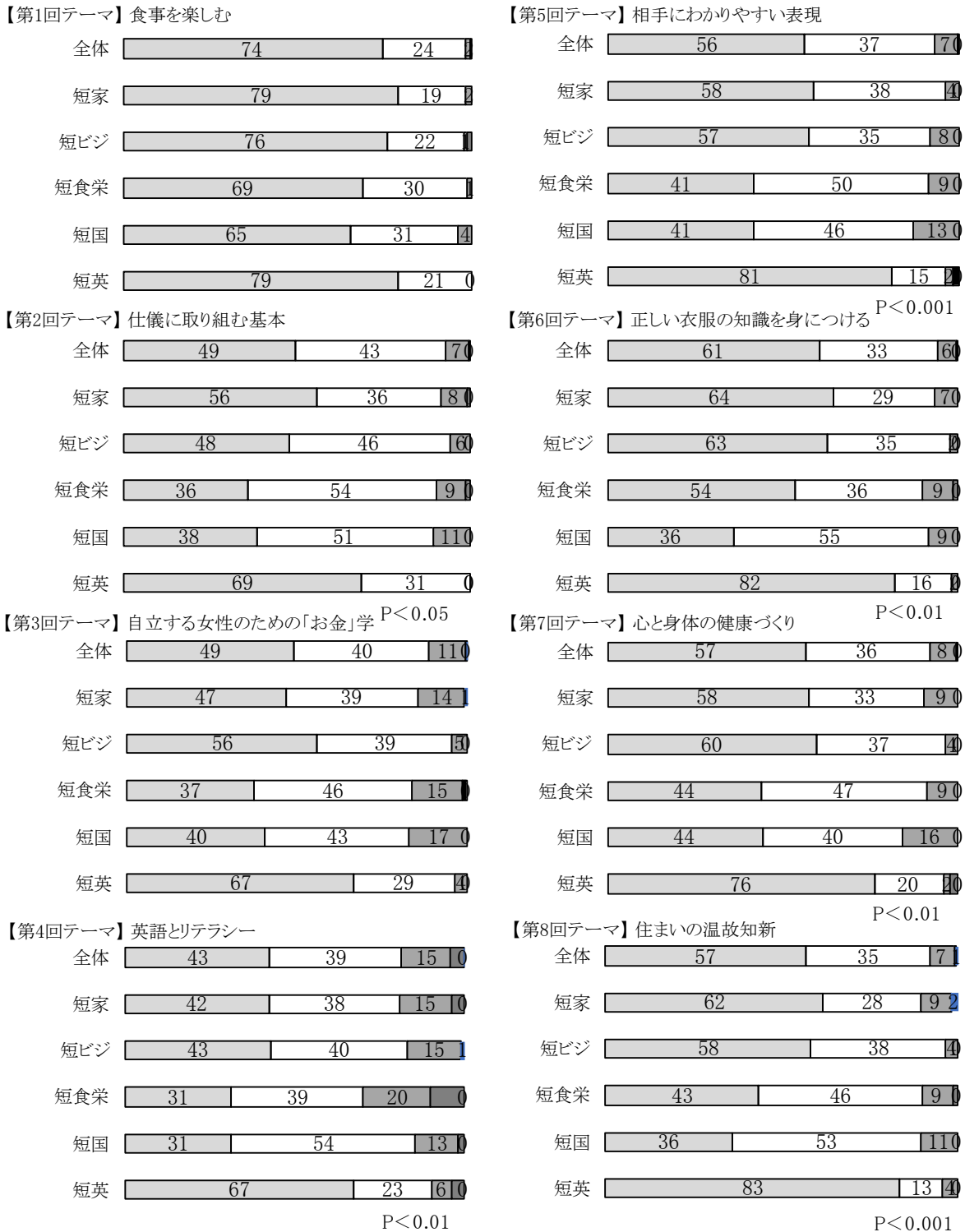
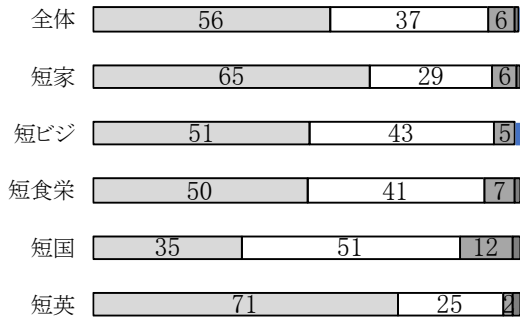


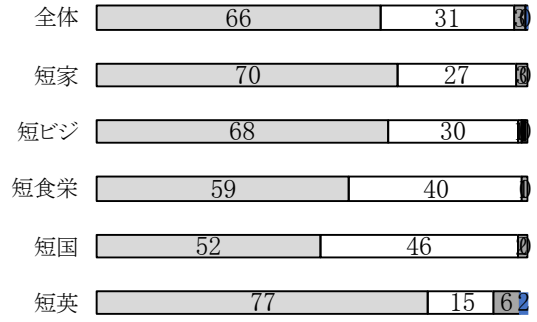
図4. Q4今日のテーマについてもっと深く学びたいと思いましたが

□ そう思う □ ややそう思う □ どちらともいえない □ あまりそう思わない □ そう思わない

【第1回テーマ】食事を楽しむ

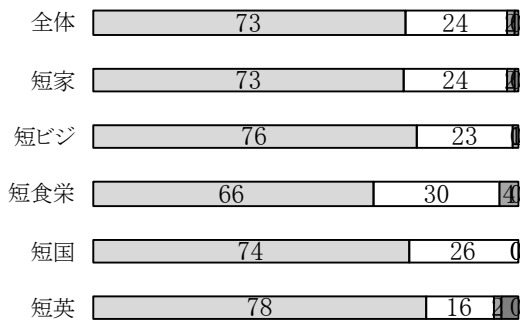


【第5回テーマ】相手にわかりやすい表現

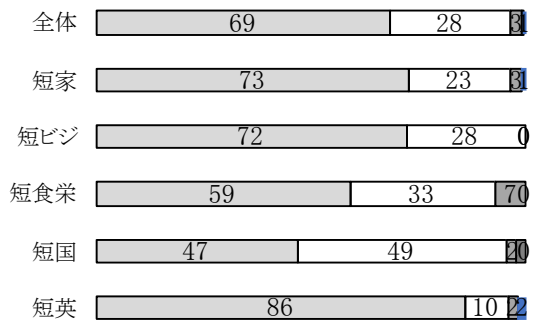


【第2回テーマ】仕儀に取り組む基本

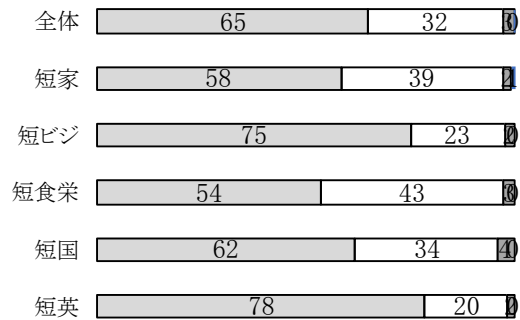
P<0.05



【第6回テーマ】正しい衣服の知識を身につける

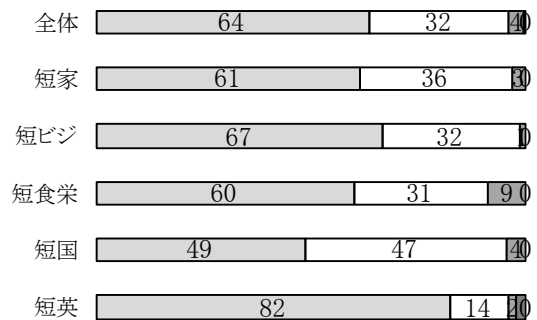


【第3回テーマ】自立する女性のための「お金」学

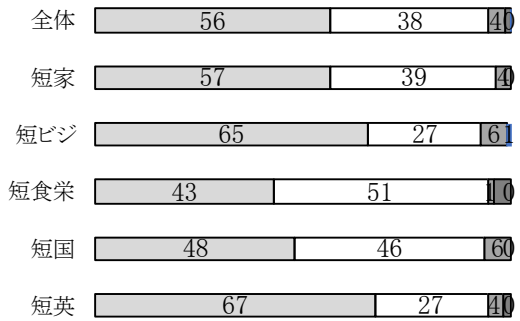


【第7回テーマ】心と身体の健康づくり

P<0.001

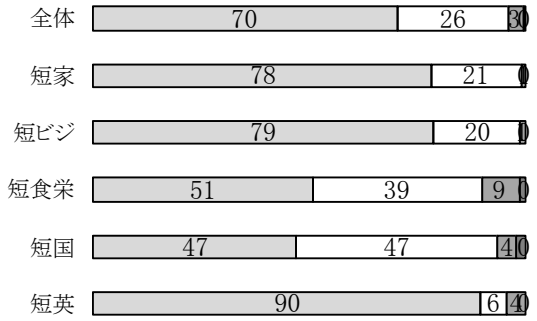


【第4回テーマ】英語とリテラシー



【第8回テーマ】住まいの温故知新

P<0.01



P<0.05

P<0.001

図5. Q5総合的にみて今日の話から「考えるヒント」が得られましたか

□ そう思う □ ややそう思う □ どちらともいえない □ あまりそう思わない □ そう思わない

かったのは、「第4回テーマ：英語とリテラシー」では短食栄の43%，それ以外の4テーマでは短国であった。この質問項目においても「そう思う」とした割合が高かったのは短英で、第8回テーマは90%であった。

8回全てのテーマを通して、各質問に「そう思う」とした割合が高かったのは短英であり、低かったのは短食栄、短国であった。本授業は、入学して間もない時期に開講しており、授業前半は高校生の頃までに培われた興味・関心が影響し、授業後半は、専門科目との重複という要因が加わったとも考えられる。これらの結果については、次年度以降の参考としたい。

3.3. 自由記述の探索的分析からみる「大妻コタカ先生からの言葉」に対する学生の意識

ここでは、受講後に実施したアンケートの「Q6 今日授業で聞いた「大妻コタカ先生からの言葉」に対して考えたこと・感じたこと等を具体的に記入してください」という質問に対して回答された全8回分の自由記述の傾向を報告する。

自由記述の分析には内容分析のためのフリーソフトである KH Coder を用いて多変量解析を行い、探索的に考察した。計算方法は KH Coder の標準設定に基づいている。

(1) 検出された高頻度語彙

自由記述で多く使用された高頻度語上位10語を表7に示した。上位10語までの最頻出名詞「自分」「言葉」「先生」「社会」「気持ち」「身だしなみ」「女性」「周り」「相手」「印象」をみると、自分を起点として对人的に、相手、周り、社会を考え、コタカの言葉と合わせて、気持ち、身だしな

み、印象に言及している様子が窺えた。

また、述語になり得るサ変名詞、「生活」「仕事」「感謝」「授業」「行動」「意識」「実行」「勉強」「成長」「自立」をみると、自分の行動、実行や、授業、勉強から、仕事、生活、成長、自立を意識するような内容に言及していると考えられる。形容動詞は叙述に使用されることを考えれば、名詞で言及されている内容を重視しているものと考えられる。さらに動詞をみると「思う」「考える」「感じる」「学ぶ」「持つ」「生きる」「追う」「言う」「忘れる」「知る」があり、知覚動詞と「学ぶ」「生きる」など今後の行動を言及する様子が窺える。

このことから、「コタカ先生の言葉」を契機として、自らを振り返り、理想とする生き方について考察した内容が多く記述されていると考えられ、「コタカ学」を通してコタカの建学の精神を学び、自己を振り返ることで将来の自分の実現方法や理想像を在学中に考える下地が培われていると推察される。

(2) 高頻度語と各テーマとの関係

高頻度語と学科・専攻とを対応分析した結果、使用語は学科・専攻との対応関係がみられず、テーマごとに全学科が集まり、全学科からなるコトニーが散見される傾向がみられた。

そこで、高頻度語と各テーマとを頻度に基づき自動的に多重対応分析を行った。その結果(図6)、学生の記述を全体的にみると、均質的な記述部分とテーマや内容に関連が強い部分があることが示された。また、均質的に集合してみえる部分でも、テーマごとに少しずつ対応関係が異なっており、テーマに関連した印象がどのような語で特徴づけ

表7. 高頻度語

頻度順	名詞		サ変名詞		形容動詞		動詞	
1	自分	3002	生活	863	大切	1050	思う	4572
2	言葉	2665	仕事	794	必要	413	考える	1745
3	先生	1492	感謝	728	大事	302	感じる	1414
4	社会	865	授業	580	当たり前	242	学ぶ	1000
5	気持ち	669	行動	452	健康	217	持つ	827
6	身だしなみ	533	意識	347	重要	192	生きる	575
7	女性	480	実行	231	静か	172	追う	511
8	周り	424	勉強	190	様々	137	言う	422
9	相手	386	成長	189	前向き	130	忘れる	362
10	印象	342	自立	188	素直	122	知る	352

types : 5,533 語, tokens : 120,793 語.



図 6. 高頻度語と各テーマとの対応分析図

られるかがテーマ毎に窺える。つまり、図 6 からは、学生の記述が、各テーマ、内容に影響を受けている様子が確認される。

原点 (0,0) からみて左上 (第 2 象限) には第 2 回に特に多い「仕事」という語が、左下 (第 3 象限) には第 4 回に特に多い「静思の時」という語が付置されている。また、第 2 回、第 4 回のテーマに関する記述に多くみられる語として、第 2 回は「学校」や「勉強」、第 4 回は、「時間」「知識」「物事」といった語がコタカの言葉の 1 つである「静思の時」とともに記述に用いられる様子がみられた。第 2 回と第 4 回の記述に用いられる特徴的な語では、現状と将来、今の知識や物事を静かに見つめなおす時間という考えが記述されている

と考えられる。

コタカの言葉は、他にも、第 6 回、第 7 回の「みんな美しく」、第 5 回の「隣を愛する」という語で、それぞれのテーマと対応する特徴語として示されている。学生の記述には、コタカの言葉も、テーマによっては、記述され、意識されているという状況が表れている。

なお、第 6 回、第 7 回は「実行」「健康」「身だしなみ」といった語との関連性が印象記述にみられ、第 5 回は「感謝」「相手」との関連性が記述にみられる。

図 6 から、第 5 回、第 6 回、第 7 回、第 8 回の各テーマの記述に際しては、学生が「気持ち」「当たり前」「周り」「人間」「生活」「自身」「大事」な

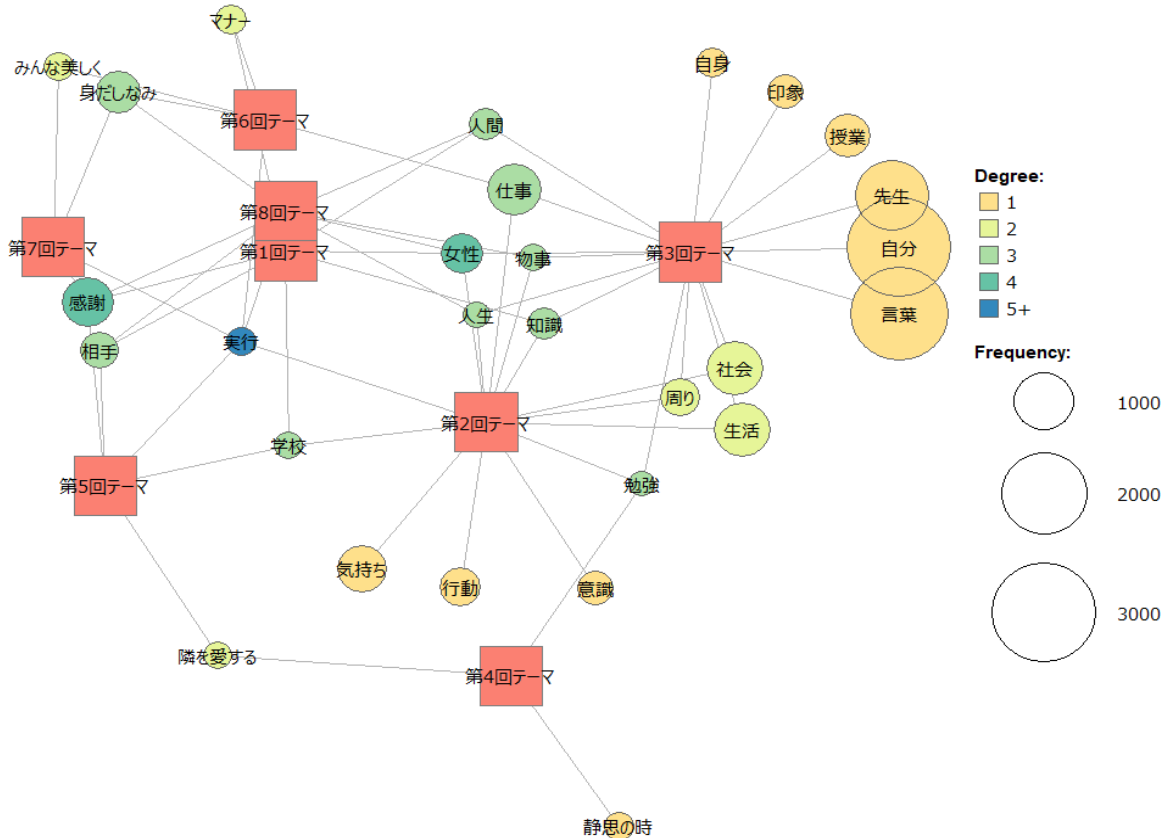


図7. 各テーマの共起ネットワーク図 (名詞)

どの語を共通して用いていると考えられる。図6で窺える文書と頻度の対応関係を詳しく確認するために、各テーマと関連性が強い名詞を共起ネットワーク図に示した(図7)。特徴的な語とテーマを関連づけた図7からは、各テーマと語どうしの関連性、ならびに、各語の使用頻度の高さを合わせて確認することができ、図6の対応関係の結果に示されたテーマと語どうしの関連性も窺える。

図6, 図7で示したように、各テーマに共有される高頻度語があることから、自由記述で使用された語によりクラスター分析を行った。その結果(図8)、類似性のある記述がクラスターに分かれ、第6, 第7回の内容に共通性が高く、また、第1回, 第3回, さらに第2回の記述で用いられる語が近く、ついで、割と近くに位置付けられる第5回の4つの回の記述に共有される語の割合が、それ以外の回の記述よりも近いものと考えられた。0.08の位置でクラスターを分割すると、①第1・2・3・5回, ②第4回, ③第6・7回, ④第

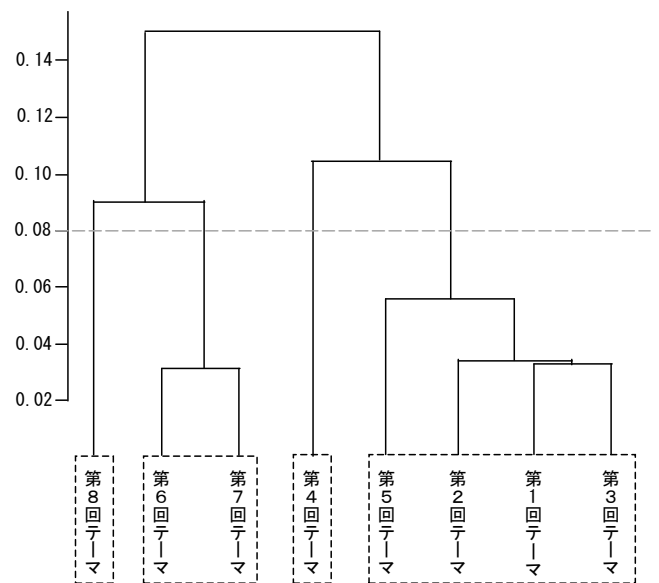


図8. [各テーマ×名詞]のデンドログラム (Ward法, Jaccard, cluster10)

8回の4つのクラスターとして類似的にまとめられた。

以上、自由記述を探索的に分析した結果から、学生がコタカの精神を学ぶことで、各テーマに応じて、または、全テーマ共通で、考察し、自らを振り返り、将来を積極的に考える様子が確認された。

4. 要約

本短期大学部では、2020年度入学生より専任教員が担当する「コタカ学」を全学共通科目基礎科目区分「I女性とキャンパスライフ」に必修科目として開講した。「コタカ学」は大妻コタカの言葉から建学の精神を学び、大妻の伝統を継承し、本学で学ぶことの誇りを感じることで学修意欲が形成され、2年間という短期間の学びを充実して過ごし、自己実現・社会貢献ができるようになることを目標としている。今年度は、8回全てをオンライン授業で実施し、manabaによるアンケート結果から、学生が本短期大学部での2年間の学びをどのように捉えたかを把握し、今後の教育の方向性を探ろうとした。

(1) 出席率は96.7～99.5%と非常に高く、学生の「コタカ学」に対する意欲の高さが示された。

(2) アンケート5項目の結果から、8回を通して平均点が4.19～4.88と高く、全体的に「あまりそう思わない」、「そう思わない」と回答したのは若干名であり学生からの評価は非常に高かった。

(3) 質問項目と学科・専攻間のクロス集計を行い各テーマによる詳細な分析を行った結果、テーマにより学科・専攻間に有意差がみられ、次年度以降の参考としたい。

(4) 全8回分の自由記述をテキストマイニングによる分析対象のデータとして、KH Coderを用いて多変量解析を行った。「コタカ先生の言葉」を契機として自らを振り返り、理想とする生き方について考察した内容が多く記述されていると考えられ、「コタカ学」を通してコタカの建学の精神を学び、自己を振り返ることで将来の自分の実現方法や理想像を在学中に考える下地が培われていると推察された。

今年度は対面授業ができず、オンライン授業での実施となり、初年度の「コタカ学」の目標を到達できるか否か危ぶまれたが、学生からの評価は

非常に高かった。「社会に出た時に恥じないように大妻で学び、卒業する頃には尊敬される素敵な女性になりたいと思う」「人としても成長できる2年間にしたい」「大妻女子大学短期大学部の目指す学生の理想像や自分の目指す理想像が具体的に見えた気がする」「コタカ先生の言葉から、生きていく上でとても重要なことを学ぶことができたと思う」「女性として自立した立派な女性になりたいと感じた」等、学習意欲の向上にもつながる前向きな意見が多く得られた。このように、入学したばかりの学生が、「コタカ学」の受講で本学での学びの源を認識し、2年間の目標を掲げることができたことは非常に意義深く、本授業の到達目標を十分に達成できたと考える。今後も授業内容の改善を重ねながら、大妻コタカの教育理念を現代的な意義として継承し、学び働き続ける自立自存の女性の育成を目指したい。

引用文献

- [1] 大妻コタカ記念会. 創立者大妻コタカ先生言行録 今、あなたへのメッセージ. 大妻コタカ記念会, 2013.
- [2] 北見けんいち. 教える道をひとすじに 大妻コタカ物語. 学校法人大妻学院, 2017.
- [3] 花村邦昭. 大妻コタカ 母の現像. ランダムハウス講談社, 2009.
- [4] 工藤美代子. 三番町のコタカさん. ワック株式会社, 2016.
- [5] 末吉美喜. テキストマイニング入門 Excel と KH Coder でわかるデータ分析. オーム社, 2020.
- [6] 樋口耕一. 社会調査のための計量テキスト分析 第2版, ナカニシヤ出版, 2020.
- [7] 大妻学院. 大妻コタカ著作集. URL:<http://www.otsuma.jp/kotaka>, (参照 2020-4-5).
- [8] 大妻女子大学博物館. 大妻学校の原点-裁縫・手芸. 2016.
- [9] 大妻学院. 大妻学院 80年史. 1989.

Abstract

Otsuma Women's University, since establishment, has long concentrated its energy not only on offering specialized academic knowledge, but also on cultivating a character of a woman as an individual human being. Its junior college department, this year, started "Kotaka Gaku" as a compulsory subject, for new students to study the spirit of its founder, Kotaka Otsuma, to find their own life-style and to go into the future world as an excellent working member of the society.

"Kotaka Gaku" is a course of 8 lectures, which, this year, were all carried out on-line. Through the questionnaires of the on-line learning system of this university, what students think of the two years study in the junior college, after studying this course, was grasped and analyzed for the improvement of its future education. The percentage of attendance, 96.7~99.5%, was very high, which shows students' strong will to study this course. The students' assessment on these eight lectures was 4.19~4.88/5 in average, with differences according to students' major, which is to be remembered and referred to as a lesson for the future of this course.

As for the free-to-write comments of the questionnaires, which were analyzed through KH Corder, the students' assessment on "Kotaka Gaku" was also very high, in which students stress their realization of the importance of studying with a sense of purpose, and their wish to grow to be an independent person, studying in life for the realization of their ideal, keeping the words of Kotaka Otsuma in mind.

The purpose of "Kotaka Gaku" was thus achieved this year, with lessons for the next year. What students thought, taking hints from the words of Kotaka Otsuma, will surely be a precious guideline for them to enrich their study in the junior college, and to live a fruitful life in future.

(受付日：2020年8月5日，2020年8月18日)

下坂 智恵（しもさか ちえ）

現職：大妻女子大学短期大学部家政科教授

大妻女子大学大学院家政学研究科食物学専攻修士課程修了。博士（学術）。

専門は調理科学，食生活。魚肉調理に関する物性と成分の変化，調理技術に関する研究，食情報と食意識に関する研究を行っている。

主な著書：『新フローチャートによる調理実習』（共著，地人書館），『図解による基礎調理』（共著，同文書院），『西洋料理全書』（共著，建帛社），『調理学』（共著，同文書院），『食生活－健康に暮らすために－』（共著，八千代出版），『食生活と健康』（共著，八千代出版），『生活支援技術 I』（共著，中央法規出版）など